

第6回 鷺浦コミセン作品展示会のお知らせ

双鷺洲

鷺浦コミュニティセンターだより

発行：鷺浦コミュニティセンター
 電話/FAX: 0848-87-5004
 Eメール: sagiurac@mail.mcat.ne.jp

◆日時 平成26年3月15日(土) 16日(日)

(15日) 午前9時～午後5時
 (16日) 午前9時～午後3時

◆会場 鷺浦コミュニティセンター

「作品展示」

絵手紙・パソコン教室の作品・クラフト
 小学生の俳句・書道・生け花・絵画・盆栽
 陶芸・染め物・刺繍・竹細工・雛人形他

小学生が作った俳句も展示します

皆様のご来館をお待ちしております



第5回作品展示会から

体験講座 『笑いヨガ』を開催しました。



1月27日(月)尾三地区で笑いヨガの第一人者 小田講師を招いて『笑いヨガ』の講座を開きました。

まず子どものような無邪気な遊び心を開放する。“イイゾ、イイゾ”と手をたたき“イエーイ”で写真のように思い切り手を挙げる……子どものように心が解放されます。

色々なバリエーションでの笑いを体験しました。

最後は高ぶった神経を落ち着かせるリラクゼーションで講座を終えました。

笑うだけでなく呼吸法やリラクゼーションの仕方など教わりとても良かったと好評でした。

夫婦げんかも笑いながらして下さい。但しその後は必ず笑いながら謝って！ 難し～い！！！！

笑いの効果

・感情の開放 ・抗ストレス効果 ・免疫力の強化
 ・有酸素運動としての効果 ・血液循環の促進 他

3月町内行事予定

- ・13日(木) 19:00～ 鷺浦町活性化地域計画策定委員会
- ・20日(木) 鷺浦小学校卒業証書授与式

鷺浦幼・小ロードレース大会



1月26日(日)鷺浦幼稚園・小学校のロードレース大会が行われました。途中からあいにくの雨になりましたがPTA・地域の皆さんの応援を受けてみんな頑張って完走しました。

鷺浦コミセンには色々な情報満載の冊子・チラシを置いてあります。気軽に立ち寄り、ご自由にお持ち帰り下さい。

- ・広報みはら ・市議会だより ・しまのわのわ
- ・ポポロ ・リージョンプラザの各種イベント
- ・電話帳(鷺浦町版H23年8月17日版)発行委員会発行)
- ・島々の日本 ・三原10名山 ・みはらっせ ・その他

俳句・短歌

・積雪に瀬戸の島々美けいかな
 鳥の餌か赤い實へりにけり

あかんたれ

・境内にメディアも揃う弓始め
 熱愛の裸の島や春遠し

ぶんか

・瞑目のわだつみに聞く震災忌
 東北をオモイあざなふ舳網

一草

・立春に二度のメス入れ恐ろしや
 死にいたらず苦しみつづく

・病室前の米田山にも雪積もる
 マッシュルームか富士の山かな

D 生

・一人逝き又一人逝く離れ島
 空家も増えて侘しき暮る

・節くれた短い指を撫でて
 農耕家事に我を支えて

牡丹

亀山八幡神社 御弓神事 三原市無形民俗文化財

2月11日(火)向田八幡神社で初祈禱祭が行われ、その後御弓神事が行われました。

御弓神事は恵方の方角の反対側に的を立て、竹で弓と矢を作り、その年の魔を打ち払うという意味で参拝者が矢を放ち、家内安全・無病息災・五穀豊穡を祈願します。

今年も山田宮司・日本弓道連盟教師で向田出身の田中ひとみさん(三原市教育委員)に続いて総代・区役員・還暦・頭屋の人達が的に向けて矢を放ちました。

御弓神事は三原市無形文化財に指定されています。



春を告げる伊勢太神祭・三原神明祭



塔の峰桜プロジェクトで桜の苗木を植樹

2月16日(日)塔の峰で桜の植樹が行われました。

向田区が塔の峰千本桜の回りの耕作放棄地を整地して桜のオーナーを募り植樹しました。

オーナーには全国から130人が応募し、当日は天満市長・瓜生教育長始め 80 余名の人が自分の名前入りのプレートに植樹しました。「桜が大きくなるのを楽しみに、毎年来ます」と皆さん大変喜んでおられました。

塔の峰桜プロジェクトは向田区が日本離島センターの助成金を受けて、桜の植樹とオーナー制度により来島者、リピータを増やし島の活性化を図る為に行っている事業です。



ひとあし早い春を! さざしま菜の花ウォーク

2月23日(日)さざしま菜の花ウォークが行われました。約 60 名の参加があり、遠方は岡山からも来られました。

菜の花と穏やかな瀬戸の海を眺めながらの一周、又“もちっこ”による「さざしま御膳」はとても好評でした。

美しい佐木島とボランティアガイドの心こもったおもてなしが喜ばれ「また来ます」と「さざしまファン」になって帰られました。



温故知新

先人の足跡を尋ね、地域を再確認することは、私達の心に豊かさを与えてくれます。

幸 神 社

幸神社は、「サイノ神」と呼ばれ、向田・佐木の途中にあり、猿田彦命が祀られています。

幸神社は、村境の路傍に道祖神(道路の悪霊を防いで行人を守護する神)として祀られる神で多くは「塞の神」と言われ祀られています。

幸神社注連柱には、「神徳照古今大道」とあり、「神の恵みが昔も今もこの道を照らしている」と言う意味が記され、もう一方の注連柱には「民生殷日双鷺洲」とあり「人々が生活し繁栄する佐木島・小佐木島」と言う意味が記されている

幸神は、古くは現在地より南500mの佐木・向田の境界にあつたと言われていますが、延宝より貞享にわたる十数年間の佐木・向田の山境紛争のため、天和3年(一六八三年 江戸時代前期)佐木の住民が神社を現在地に遷座したと伝えられています。

山境の紛争

延宝年間(一六七三年)

延宝年間より、須波・向田両村の山境の件につき、喧嘩続出しに数度の出入りに及び十年來の紛争となる。

貞享元年(一六八四年)

特に貞享元年の出入り熾烈を極め、これが為両村の在方役人悉くお役ご免となる。

郡代より左兵衛介並びに向田神主及び安楽寺住職等三名調停役を被仰付かり種々斡旋和議を図る。

佐木嶋 安楽寺

向田浦 神主 宇右衛門

佐木浦 神主 左兵衛



協力：山下博巳氏